

経営比較分析表（令和4年度決算）

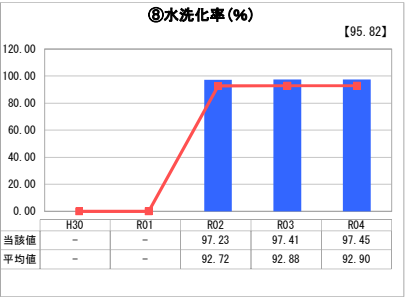
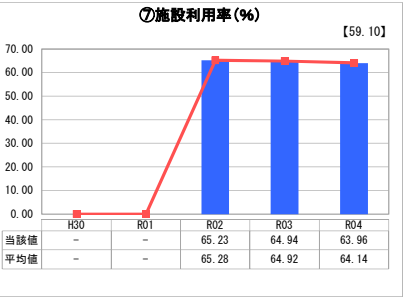
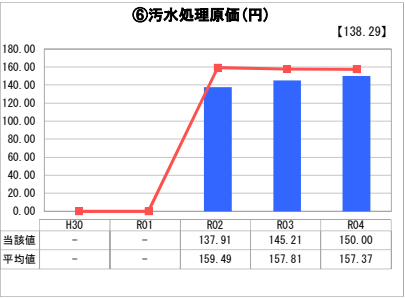
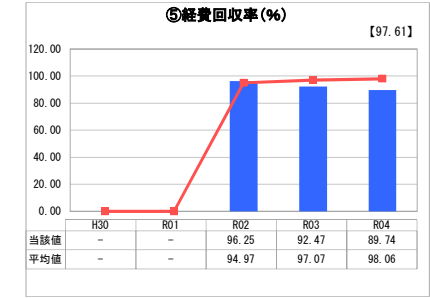
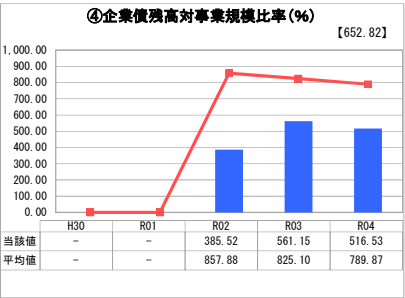
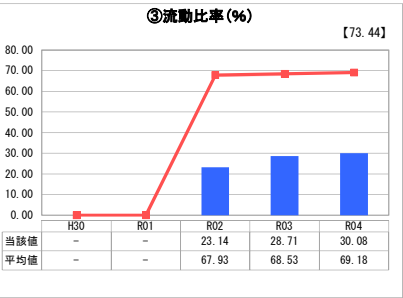
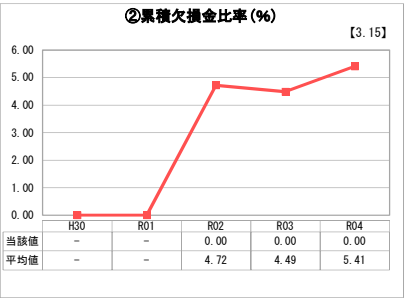
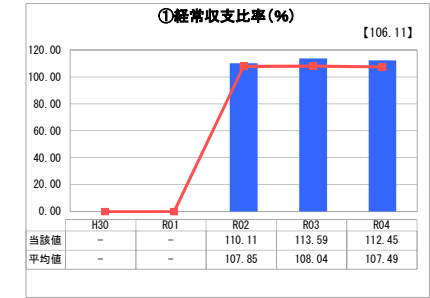
千葉県 袖ヶ浦市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Bd1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	79.95	67.92	90.57	2,344

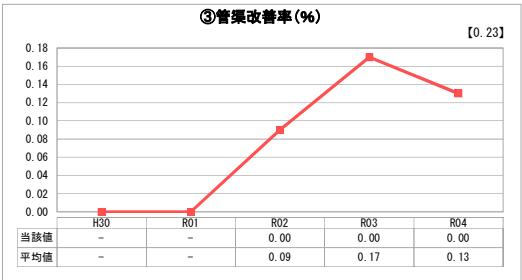
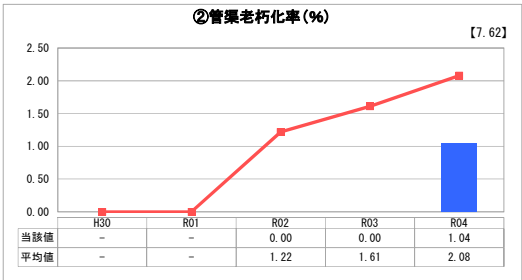
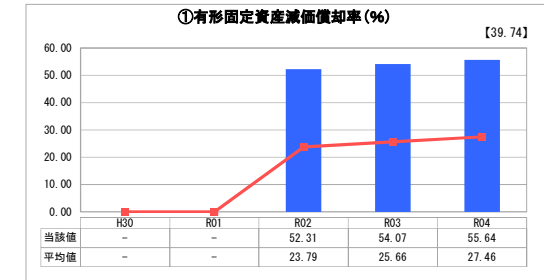
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
65,659	94.92	691.73
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
44,677	10.14	4,406.02

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率、⑤経費回収率、⑥汚水処理原価
経常収支比率は100%を上回っているものの、経費回収率は100%を下回っており、一般会計繰入金等で収入不足を補っている状況である。汚水処理原価は、燃料費高騰等の影響により増加傾向であり、今後も老朽化の影響により増加が見込まれる。以上のことから、今後も費用の削減、使用料の確保が必要となる。

②累積欠損金
累積欠損金は発生していない。

③流動比率
流動比率は、類似団体平均を下回っており、資金繰りは厳しい状況である。資金不足については一般会計からの基準外繰入金にて対応せざるを得ない状況である。

④企業債残高対事業規模比率
管渠整備、処理場建設から年数が経過し、償還が進んだことにより、前年度より減少している。

⑦施設利用率
施設利用率は類似団体と同水準である。水洗化率が97.45%であり、施設利用率の大幅な向上が見込めないことから、施設の耐用年数を踏まえ、適正な処理規模を維持する必要がある。

⑧水洗化率
水洗化率は類似団体平均をやや上回っているものの、今後も継続して接続数を増やすような取組みが必要である。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率
有形固定資産減価償却率は、全国平均及び類似団体平均を大きく上回っている。耐用年数を超える資産が令和4年度決算で発生した。処理場の建設、管渠の敷設からかなりの時間が経過しており、施設の老朽化が進んでいる。
処理場については、昭和59年の供用開始から30年以上が経過しているため、有形固定資産減価償却率は高い傾向にある。
今後は新規整備と並行して老朽化した施設の維持管理に取り組む必要がある。

②管渠老朽化率
法定耐用年数を経過した管渠が発生した。今後も緩やかに増加する見込みであるため、適切な維持管理を行う。

③管渠改善率
改善（更新・改良・修繕）管渠延長はない。

全体総括

下水道事業会計において、経営状況は比較的良好であるように見えるが、収益の一部を繰入金に大きく依存しており、健全経営とは言えない。
また、施設の老朽化の状況から大きく経費が発生が見込まれる等の問題を抱えている。
今後は、適切な料金の設定と、経費抑制に努め、経営の健全化を図っていく。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のための類似団体平均値及び全国平均を算出しています。